

## 2022 年度活動報告

事業の柱である「在日ミャンマー人定住相談支援」を前年に引き続き実施した。また、文化交流事業として、多文化共生スタディツアー主催、ミャンマー語のレッスンや、ミャンマー人に対するオンラインの日本語レッスン、外部団体イベントなどにも積極的な参加を行った。

### 【組織運営】

#### ① 会員

2022 年度会員加入実績

正会員 26 人

賛助会員 15 人

うち 10 人が新規加入 会員合計 41 人

### 【在日ミャンマー人定住支援事業】

#### ① 2022 年度の相談支援実績( 受益者 約 100 名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ビザ関連	2	4	1	6	8	7	5	5	2	2	7	2	51
通訳・翻訳	16	7	7	8	4	1	10	4	2	4	6	4	73
施設手配													0
税金相談				1				1		1			3
進学相談		1				1		1					3
学校対応								1					1
労働関連	3	10	9	4	1	10	3	3	5	6	5	3	62
不動産関連	5	1	3	6			9	2	4	10	1	3	44
食料支援		3	5	3	1	3	3				1		19
行政手続き	4	7	5	2	4	4	3	1		3		3	36
日本語レッ	5	10	12	15	6	4	4	5	5	6	4	4	80
その他	15	17	15	18	14	7	23	8	9	19	14	17	176
月合計	50	60	57	63	38	37	60	31	27	51	38	36	548

#### ※その他支援内容:

来日したばかりの配偶者の定住相談、病院同行、携帯ショップ同行、緊急小口資金相談、飛行機チケット購入相談、電話契約変更支援、クレジットカード契約支援、ゴミ出し指導対応、産婦人科探しなど

## ※相談者の分析

- ・性別 男性 72.6%、女性 27.4%。
- ・年齢 10代～60代
- ・民族 ラカイン人 60.9%、ビルマ族約 34.1%、残り 5%はカチン族、モン族の順の多さで相談を受けた。ラカイン人が多いのは、当団体ミャンマー人理事がラカイン人であることが理由としてあげられる。また、日本人の方からも随時相談を受けている。

### ② インターン育成（受益者 16 名）

大学生インターンが定住支援業務に従事することで、支援の方法を学び、知見を広げた。若い世代が多文化共生について触れる機会を作ることで、今後の日本国内の国際理解の一端を担った。

## 【文化交流事業】

### ① 文化交流イベント（受益者 約 5 万人）

神奈川大学みなとみらい祭サテライト出展(11月)

関内 SDGs カフェ開催(11月)

あーすフェスタかながわ参加(12月)

かながわボランティアフェスタ参加(1月)

金沢ラウンジフェスティバル参加(2月)

上記のイベント活動により、たくさんの方々へ多文化共生や当会の活動への興味関心を高める機会を得た。

### ② 日本語オンラインレッスン（受益者 10 人）

ボランティアの方 2 名とインターン 5 名・スタッフ 2 名で、在日ミャンマー人に対してオンライン日本語レッスンを年間 80 回実施した。10 人の在日ミャンマー人の日本語能力向上に貢献し、日本社会での外国人の円滑な生活を促した。

### ③ ミャンマー語レッスン（受益者 3 名）

母語としてのミャンマー語レッスンと、日本人に対するミャンマー語レッスンを行った。毎週一回、年間を通して行い、合計 37 回実施した。3 名の日本人に対して、ミャンマー語能力の向上およびミャンマーへの友好促進に貢献した。

### ④ セミナー講師（受益者 計 20 名）

2023 年 1 月に開催された IDFG2023 本会議のセミナーで、ミャンマー本国や在日ミャンマー人の現状、当会の活動について講演を行い、国際理解促進に貢献した。

⑤ **多文化共生スタディツアー（受益者 計 34 名）**

SDGs に関するイベントや当会主催イベントとして、在日ミャンマー人と共に在日ミャンマー人が働く奈良県の旅館を訪れインタビューと奈良観光を行うスタディツアーや、横須賀市に住む在日ミャンマー人のお宅を訪問しインタビューとディスカッションを行うスタディツアーを実施した。在日ミャンマー人の実情や国際理解について、参加者同士でも活発に議論が展開され、多文化共生社会の実現に貢献した。

⑥ **その他**

研究者や行政、情報機関に対する情報提供を不定期で実施した。アカデミックやジャーナリズムを通じたミャンマーや外国人労働者の理解向上に貢献した。TV や新聞などマスコミ関係者に情報提供を行った。

**【国際協力事業】**

① **ミャンマーシャンリーコーヒー販売（受益者 ミャンマー本国のコーヒー生産者 約 200 名、マスク工場の工員 約 550 名）**

昨年度から始まったミャンマーシャンリーコーヒー・ミャンマーマスクの販売を継続して行った。コーヒーは好評につき新たに仕入も行っている。

コーヒーとマスクをリターン品とした在日ミャンマー人支援資金を募るクラウドファンディングでは、30 万円の目標金額を達成した。

各種イベントなどでも積極的に販売を行い、多くの日本人の方々にミャンマーのコーヒーを知っていただくとともに、当会の活動や多文化共生への興味関心を高めた。

② **日本語学校の設立（受益者 ミャンマー本国の日本で働きたいミャンマー人 20 名）**

ミャンマー本国ヤンゴン・ミンガラドン地区で、働きながら夜間に日本語を学ぶことができる日本語学校を設立した。日本で働くことを目指すミャンマー人に日本語を学ぶ機会を提供することで、ミャンマーと日本双方向での異文化理解や多文化共生を広める。